

〈2級〉

【A群（真偽法）】

- 1 **といし切断機は、ライニング鋼管の切断に適していない。**
○（設問のとおり）
切断箇所のライニング部を損傷する可能性がある。
- 2 **ライニング鋼管をねじ接合する場合は、管の端面の鋼管部分が管内の水などに触れると腐食が生じやすいので防食を行う。**
○（設問のとおり）
- 3 **埋設配管の水圧試験は、埋戻し前に行う。**
○（設問のとおり）
- 4 **発泡プラスチック保温材は、熱に強く200℃で利用できる。**
×【解説】 発泡プラスチック保温材は、材質・工法により異なるが、その使用温度は、70℃～130℃以下で利用される。
- 5 **アーク溶接において、ブローホール（気泡）の発生を防ぐには、被覆溶接棒に湿気を与えるとよい。**
×【解説】 ブローホール発生対策法として、「溶接棒の乾燥」「母材表面の清掃」「酸化被膜の除去」などがあげられる。
- 6 **水は、標準大気圧（1気圧）の下で0℃のときが一番重く、温度がそれより高くても低くても軽くなる。**
×【解説】 水の比重は通常、約4℃の時が一番重いとされている。
- 7 **日本産業規格（JIS）によれば、配管用炭素鋼鋼管（SGP）は、亜鉛めっきの有無によって、白管と黒管に区分されている。**
○（設問のとおり）
- 8 **可とう管（フレキシブル）継手は、ねじれ又は機器と配管との接続部の変位を吸収することができる。**
○（設問のとおり）